



人と自然のつながりを知ろう！ 里山の生きものに学ぶシリーズ



遙か昔から持続可能な生活を続けてきた里山の生きものたち。
彼らの生き方には、人間が持続可能な生活を送るヒントが詰まっています。
トヨタの森では、そこからの学びを全国の環境保全活動や環境教育活動につなげたいという思いから、
2015年より里山の生きものをテーマにした環境学習プログラムを実施しています。



シリーズ第1弾
「ムササビに会える森づくり」 (2015年)



PDF : 1.23MB / 全2ページ

シリーズ第2弾
「トンボから伝えよう！人と自然共生の未来」 (2017年)



PDF : 1.49MB / 全2ページ

シリーズ第3弾「カエルと育む生きる力」を開催しました！

PDF : 1.57MB / 全2ページ

2019年5月12日（日）、新緑がまぶしいトヨタの森でシリーズ第3弾となる「カエルと育む生きる力」を開催しました。カエルは、人々の暮らしに身近な存在で、食物連鎖の要でもあります。その生き方や命のつながりを知り、人とカエルが共に生きる魅力や大切さを伝える方法を学びました。

基調講演では、愛知教育大学 准教授 島田知彦氏に登壇いただき、田んぼなど人がつくった環境の中でカエルの暮らしがどのように変わってきたか、ヌマガエル、ツチガエル、ヒキガエルの生態と合わせご説明いただきました。



参加者は、環境教育や自然保全に携わる方からカエル愛好家の方、ご家族連れの方々まで総勢71名と多岐に渡り、年齢層も若い世代からシニア世代と幅広く、「カエル」に対して関心を高く持っている人々の多さを改めて感じました。

体験ワークショップでは、実際のおたまじゃくしの変態観察やカエルの鳴き声に似た音が鳴る楽器を使った実際のカエルとの交信実験、外来種であるウシガエルのおたまじゃくし駆除、カエルグッズを用いたカエルの生態観察をおこない、様々な角度でカエルに親しみ、カエルが生息するために必要な自然環境などを学びました。



また、事例発表として、「世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ」学芸員の田上正隆氏より、取り組まれているカエルの飼育展示や繁殖保全活動について、「慶應義塾大学 自然科学研究教育センター」共同研究員の戸金大氏からは、希少種であるトウキョウダルマガエルの研究・保全活動について興味深いお話をいただきました。

参加者からは、「アカデミックな立場の人からカエルグッズの関係の方まで集まっていて、普段はできない話ができて有意義だった。」「カエルはいて当たり前と思っていたが、住める環境を絶やさないようにしなければと思った。」「機会があれば、カエルに関して見て触って学ぶプログラムを子どもたちに提供したい。」との声をいただきました。

今回のプログラムを通じて、参加者自身が暮らしを見つめるきっかけづくりのお手伝いことができました。



本シリーズは、トヨタの森の生きものをテーマに、人と自然の共生のあり方を考える場として今後も継続していきます。